



## 「真っ黒なキャンパス」

現代福祉学部 3年  
山田早紀

校長は朝礼台に登らなくなってしまった

かつて、中学も高校も朝礼では似たような言葉が並んだ。私たちが真っ黒なキャンパスだと。それは聞き飽きていたし知っていた。

そんなことを言われ続けた毎日は、今となっては若干羨ましく、寧ろ恨めしいほど。

というのも、大学生になってから、突然言われなくなったからです。それはとても不安で・不安で。ああ私はもう有限なんだなと思った。

だけど3年生になって  
考えが変わったので言わせて下さい。

私たちのキャンパスはもう黒い。  
それはそれは盛大に。  
4年間で自分のやりたい事が見つかるぞ、と手当たり次第に塗ってきた。

ボランティアをしてキャンパスは山吹色に  
海外に短期留学して燃えるような朱色に  
地方で暮らしたいと願い若草色を重ね  
都会での洗練された暮らしを求めて藍色を混ぜ混ぜ

そしてすっかり汚らしい黒となりました。  
それは前進。それは可能性。

それはそれで乾かして上からドンドン塗り重ねてゆく  
パレットの中で、こんな色もあったんだって、  
とまた新たに広げてみたり、昔との好みの違いに笑ったり。

ホワイトなキャンパスでは目もくれなかった白い絵の具が突然魅力的にもなりうる

校長先生、朝礼台に上がってください  
私たちのキャンパスはこんなに黒くなりました。

あとは星を撒くだけ

### ●講評●

時間は見方により無限でも有限でもあります。大学4年間で、さまざまな体験を通して前進し、可能性を見つけようとした様子が伺えます。色を塗り重ねたキャンパスに、これからどんな色の星を撒くのでしょうか。



## 「ある晴れた日のこと」

キャリアデザイン学部 3年  
林風輝

「俺さ、うんざりするほど無駄な時間を過ごしてきたんだよ」

チェーン店のカフェの2階。端っこの席。そこで僕は友人にそう言った。  
あれは大学3年生の6月頃だっただろうか。梅雨に入り、雨が続いたことで洗濯物が干せず、天気と一緒に気持ちもどんよりしていたことは覚えている。仕方なく部屋干した衣類は、やっぱりどこか湿っていて、パリッとしていなくて、それは僕の心を表しているようにも見えた。

「大学生になってさ、何かと自由に使える時間が増えたんだよ。高校生の時は割と忙しかったから、時間に追われない生活に憧れてたわけ。でもさ、いざ大学入ったら、意外とやることなくてさ。授業出て、サークル行って、バイト行って。なんか、そのくらいなんだよな。それ以外は何も無い。何か熱中できるものを探したりもしたんだけど、それが見つからず、もう3年生だよ・・・」

長々と吐露した言葉は、友人に届いているのか自分でもわからないくらい、早口だった。友人は、ただ黙って、しかし僕の目をしっかりと見て、聞いていた。

「で、何もすることがないとさ、結局家でゴロゴロして過ごしちゃうわけさ。ぼーっとしてさ。何にもしない、ほんと。うんざりするよ。その上嫌なのがさ、何もしてないせに腹は減るんだよ。そのたびに、なんかすごい罪悪感に襲われるんだよ」

僕は続けてそう言った後、なぜか友人の方を見れなくなって、窓の外に目をやった。友人は相変わらず、ただ黙って聞いていた。僕はなんだか、堪らない気持ちになって、少し強めにこう言った。

「・・・でもさ、自分で言うのも何なんだけど。そうやって何もせず、どこにも行かず、部屋でただゴロゴロしてる間にもさ、間違いなく、いろいろ考えてるんだ、俺。まあ、それはほぼ自分についてなんだけど。例えば、今までの人生を振り返ってひたすら後悔したり、将来のことを考えて猛烈に不安になったり。どうすれば自分を好きになれるだろう、とかひたすら考えてたこともあったり。他にもさ・・・！」

「じゃあ、それは無駄じゃないと思うよ」  
ここで初めて、友人が言葉を発した。僕は少し驚いて、彼を見た。真直ぐな目をしていて。

「えっ？」  
「だって“考えてる”んじゃない。ちゃんと自分と向き合って、ずっと葛藤してるわけですよ。それはしんどいことだよ。でもすごいことだ。そんな風に過ごした時間が、どうして無駄だと思うの？」

「・・・」  
僕は、答えられなかった。でも、不思議と腑に落ちた気がした。同時に、なんだか安心した。

店を出ると、空は青かった。  
「久しぶりに晴れたね」  
と僕が言うと、友人は少し笑って、  
「昨日も晴れてたよ」  
と言った。

### ●講評●

とことん考え、悩むこと。苦しいけれど、そうやって自分を見つめ直すことは決して無駄ではない、その向こうに「熱中できるもの」が見えてくることもあるのでしょう。そのことを気づかせてくれるお友達がいることもまた幸せですね（お腹が減るのも健全です）。



## 「未来への投資」

経営学部 1年  
秋元翼沙

若者の可能性は『無限』だ、と言う人がいる。  
たしかに、やらなきゃいけないこと、やりたいこと、なりたいもの……まだ進む道を決めていない僕たちの未来は彩られている。

しかし、宿題や勉強、サークル活動に時間を割くうちに早くもルーティン化して、凝り固まってしまった生活を送っていると、ふと思うことがある。

——時間は『有限』だと。

今こうしているうちにも時間は刻一刻と過ぎていて、そう遠くない未来ではもう就職しているのだろうと考えると、なんだか不思議な心地を覚える。  
それを強く思ったのは、とある講義にて先生がおっしゃった言葉を聞いてからだ。

「今、この講義を受けるために割いている時間は、将来への投資だと思ってください」

たしかこんな内容だったと思うが、この言葉はとても強く心に残った。

お金と同じように時間だって使えばなくなってしまふ。  
しかし、お金とは違うところが一つある。  
————一度使ってしまうと、もう二度と戻ってこないのだ。

この言葉を聞いてから僕は、時間というもの、およそ人間が持ちうる中で一番大切な『資産』だと考えるようになった。

大学生活の中の貴重な今日一日、この二十四時間は、いつか将来に繋がる大きな投資となる。ならば、未来の自分が誇れるような一日一日を送りたい……そう思った。  
まだ僕の大学生活は始まったばかりで、振り返ってもその足跡はほんの少ししかない。  
これから先、毎日遊びほうけるも、勉強漬けの毎日を通すも、すべては僕の心次第。  
だからこそ、若者に与えられた特権である『無限』の可能性を実現するために、これからの長いようで短い大学生生活を、『有限』の時間を、これから先を見据えて大事に使っていきたい。

すべては明日の自分のために。  
今日の自分を、明日の自分が誇りに思えるくらい何事にも全力で。  
僕は、僕自身の未来へ投資する。

### ●講評●

「有限」の学生生活を見つめ直すきっかけとなった、「この講義を受けるために割いている時間は、未来への投資」だという教員の言葉。時間を資産と考え、自身の「無限」の可能性を広げるため、日々を全力で生きる決意をした筆者に、心強さを感じました。